

各学年、分掌からの報告

(3学年) 山地 大祐

コロナ禍で最終学年3年生を迎えました。昨年同様、これからどのような制限の中で受験を迎えなければいけないのかと不安を感じながらのスタートとなりました。

3年生となり、生徒一人ひとりが自分自身の進路実現に向けて、一生懸命に取り組んでいます。生徒の顔つきもかわり、また生徒同士の話題も受験に関する内容を耳にするようになりました。しかし、その取り組み状況は温度差があるようにも感じています。5月28日(土)には、共通テスト模試を校内で実施し、135名の生徒が受験しました。毎年200名前後がうける模試であり、教員からもかなりプッシュしたのですが、例年にない受験者数の少なさでした。また、受験や勉強へのプレッシャーなどを感じる生徒も現れており、担任や学年だけでなく、生徒支援を含めたサポート体制を充実させていかなければいけないと感じています。

5月18日の体育祭では、晴天に恵まれ絶好の体育祭日和でした。3年生の有志で応援団が結成され、ダンスパフォーマンスを見せてくれました。応援団が体育祭を盛りあげる、といった流れが来年以降も引き継がれていけば、と願っています。また、現在で9月2～3日の文化祭について、各クラスが構想を練っているところです。

最上級生として、学校全体を引っ張っていきながら、最終学年として、生徒一人ひとりの高校生活がより良いものとなっていくように、学年全体でサポートしていきたいと思えます。

(2学年) 大槻 明美

2年生になって、クラス単位での授業がなくなり、一人一人の時間割で毎時間荷物を持って教室を移動しています。それぞれで課される課題等も異なり、学習のスケジュールも自ら立て、管理するなど、1年次より『主体的』に取り組むことが求められますが、その事を未だ自分事と考えられていないように感じます。6月の中間考査後、少し変化が見られると各教科担当からの報告もありますが、懇談等でも、強く現状を伝え、奮起を期待しているところです。

また、クラスで『ひとり』と感じてしまっている人、クラスの雰囲気になじめない人・・・いろんなパターンで不応が起きています。クラスで共に過ごす時間が少ないこと、そもそものコミュニケーション力の低下が要因と思われる。5月の遠足、体育祭がチャンスでしたが、それら行事の際にストレスを感じてしまい、頑張り切れない生徒が複数います。良好な人間関係を作ることも、担任等の手助けが必要な状況と感じています。この後も文化祭、修学旅行と行事が続きます。学年団としては、きめ細やかな観察と指導を継続しているところです。

(1学年) 古川 晃

51期は4月入学以降、大きな問題もなく、学校生活を送っておりますが、まだまだ中身は中学生ですので、早く高校生になって成長するように、そして3年後にいい卒業を迎えられるためには、1年時が最も大切であるという考えの下、いろいろな刺激を与えながら指導しております。

学年方針として、「受身打破」「脱過保護」「人間力の向上」を掲げ、過剰サービスをせず、まず自ら行動させ、失敗をさせながら、成長させる、というコンセプトで指導にあたっています。加えて、近年の生徒達の大きな課題と思われる知識・語彙力の不足によるコミュニケーション力の弱さを少しでも補うべく、毎朝10分の読書活動を実施しています。読書習慣の確立とともに1時間目の授業へスムーズに入れる、という効果も表れています。

今後の取り組みとしては、夏休みの大学オープンキャンパス参加、学年行事としての外部体育館での1日クラスマッチ、学年独自の芸術鑑賞(狂言)、百人一首大会(or群読)などを予定し、進路意識や学年・クラスとしての団結・協力意識の向上、幅広い教養へのきっかけ作りなどをめざしていきたいと思っています。そして、何事も「やらされている」という意識を変革し、自ら積極的に学習・行動できるようにするために、新たな働きかけを現在も検討しているところです。

(教務部) 村津 宏典

●新カリキュラム

51期生より新カリキュラム、観点別評価が始まった。

教務研究会で他校と情報共有をしながら、校内でも引き続き検証・検討を行っていく。

定期考査・成績処理について、ミスが起きないように注意喚起を行っている。

●教科担当者会議

各学年、前期・後期にそれぞれ2回ずつ会議を実施している。

1回目は担任からの生徒情報の提供、2回目は教科担当者から授業の様子などの報告が主な内容である。事前に担当者からの入力されたものを準備し、会議では特に強調すべき部分のみを報告するように工夫をしている。

●科目選択

各学年教務、進路のメンバーで、科目選択指導のための調整会議を実施している。

後期科目変更や抽選など、再選択のための説明は、同じ条件にそろえるため、できる限り教務の係を中心に学年と協力して行う。

また、自立支援コース生の選択については、事前に教科や自立支援コーディネーターとの相談、調整が必要である。

●学外の学修(R3年度)

・高大連携参加人数 前期 2年 2名 3年 4名

(進路指導部) 西本 達哉

昨年度の4年制大学の進学率は66.3%と、2016年度から5年間で約7%上昇しています。その背景には、浪人生の減少が影響していると考えられます。浪人生の数は、43期生の30名から、47期生では13名、48期生では5名と、年々現役志向が高まっています。

学生募集市場の規模を表す18歳人口はこの6、7年、120万人前後で推移していましたが、2020年度入試以降、毎年約2万人ずつ減少しており、2024年度入試(現高2生が受験)では、約107万人まで急激に減ると予測されています。大学全入時代と言われる中でも、「行ける進路」から「行きたい進路」にこだわりを持った進路選択ができるよう、進路指導部では昨年度より、基礎学力と学習習慣の向上を目的とした学校オリジナルドリル「堺東ドリル」(通称 ガン ドリ)の導入を始めました。引き続き、個々の生徒の進路支援に努めたいと思います。

(生徒指導部) 鈴木 昭広

スローガン

「遅刻・欠席をしない!正しい頭髪・服装!マナー・モラルの向上!」

遅刻件数

R4年度(4・5・6月) 1年生 57件、2年生382件、3年生341件 合計780件
R3年度(4・5・6月) 1年生137件、2年生280件、3年生285件 合計702件

懲戒件数

R4年度(4・5・6月)	1年生	0件	2年生	0件	3年生	0件	合計	0件
R3年度(4・5・6月)	1年生	0件	2年生	0件	3年生	4件	合計	4件

その他(今年度の取り組み)

- ・携帯電話に関する規則についてルール変更を行う。
- ・頭髪チェックを考査内でも行う。
- ・巡回当番の復活。

(生徒会部) 盛島 優人

今年度の部活動加入率は1年生65%、2年生60%、3年生69%、全体で65%でした。コロナ禍の影響もあり、下がってきているクラブ加入率をどう上げるかが課題です。今年度はまずクラブ紹介をもっと盛り上げようということで、生徒会執行部の生徒と企画をしました。各クラブにトークよりもパフォーマンスを重視するようにお願いをしたり、ダンス部、軽音楽部、吹奏楽部に依頼して合同でパフォーマンスをしてもらったりして、新入生に堺東高校の楽しい雰囲気を伝えられるようなクラブ紹介ができました。結果としては高い加入率を確保できなかったのですが、今後どのように上げていくか検討していきます。

5月には体育祭を実施しました。感染対策の規制も少しずつ解除されており、3年生の保護者の方が観戦できるような形で行いました。三輪車に乗ってリレーをしたり、イントロクイズをしたり新たな試みもありました。人気のリレー系の種目では、学年関係なく、全員が一丸となり盛り上がり、良い一日になったと思います。

現在は文化祭に向けて、生徒会執行部の生徒と活動しています。校内の装飾に力を入れる、新たな開会式の形を作る等の計画を考えています。まだまだ感染対策が必要ですが、全員が楽しめる文化祭を作れるように工夫していきたいと思います。

(人権教育委員会) 竹本 恵子

今年度の全学年対象の人権講演会は、ビッグアイにて、吉藤オリィ氏による「“対孤独の発明家”が描くテクノロジー社会のありかた」というテーマでの講演を実施しました。

重い病気や障がいがある人があって体を動かさない人や何らかの事情で自宅から出られない人たちが社会とつながることができる技術やシステムを実現していくというお話から、生徒たちが今後の社会の在り方について考えるきっかけをいただけたかと思います。各学年で実施する人権HRについては、1年生が7月にネットやSNS上のトラブルに関する学習に取り組みました。2年生は11月に奨学金や契約に関して学ぶ法律講座と「インターネットと人権」についての講演を実施予定です。3年生は「就職と人権」をテーマに6月は統一用紙の歴史と同和問題を学習し、9月は過労死防止について労働問題や労働条件に関する啓発授業、後期にHIV・エイズ防止教室を行う予定です。第一回教職員研修は、8月22日に「思春期の子どもとより良きかわりのために」といテーマで、常磐会学園大学の教授・佐谷力先生にご講義いただく予定です。

(生徒支援委員会) 矢田 栄美

★生徒支援委員会の役割

「学校生活に困難さを抱える生徒やその担任へのチーム援助」

1. 支援委員会対象生徒

R3年度 1年次20名、2年次31名、3年次20名 合計71名

*前年度は毎月平均31件の生徒の事例を共有、検討。今年度も同様の人数。

2. R4年度要配慮生徒について

1年次生徒…指定難病

3年次生徒…コロナ後遺症により、プロジェクト委員会と連携を図りながら、生活に必要な支援（介助員の配置、教室の移動等での車いす補助）や学校生活に必要な支援（休養室の設置等）を進めている。

3. コロナ禍における休校や感染による不安による欠席や感染後の後遺症により欠席が増えた生徒に対しての出席の扱いや成績を出すうえでの状況の共有を行う事案が増えた。

その他（今年度の取り組み）

- ・担任との連携を密に図りながら、欠席が増加傾向にある生徒への面談を行う
- ・生徒相談室当番を組み、保健室との連携を図り、不調の生徒への対応を進める。
- ・配慮を要する生徒の情報を教員内でタイムリーに共有するシートを作成中。

（自立支援コース） 自立支援コーディネーター 野間 悟

3年A君 4月・6月にそれぞれ1週間 電化製品量販店にて実習

3年B君 6月に3日間 大手釣具屋にて実習。さらに9月に1週間 同企業にて実習の予定

3年Cさん 7月に1週間 大手スーパーにて実習予定

その他 平日の授業の生活授業3時間（連続コマ）を利用して、図書館で実習

2年D君 7月に3日間 おおさか人材雇用開発人権センター（C-STEP）にて模擬実習

2年E君 7月に3日間 おおさか人材雇用開発人権センター（C-STEP）にて模擬実習

2年F君 6月に1週間 大阪府庁の守衛業務の体験実習

1,2年生全員で、3年生の図書館実習を見学 8月末にその図書館にて1日実習予定

総評：実習などを体験することで得られる学びの大きさを実感しています。校内では、学年をまたいだグループで昼休みに畑管理をしています。今後は、生産収穫した野菜を販売することを目標に準備しています。生産・収穫・販売・消費の体験を通して学校内でも労働経験を積み重ねます。サツマイモの収穫も間に合えば、年末に広い範囲に声をかけて焼き芋大会などを自分たちで企画してもらい予定です。文化祭では、モザイクアートによる展示企画、野菜販売（収穫がタイミング良くできれば）の企画を提案しています。今後も、生徒たちが多くの経験をできるようにサポートしていきます。

（志学研究委員会） 首席 山田 記代

令和4(2022)年度 堺支援学校 7月交流会について

7月14日(木)、本校会議室において堺支援学校とのオンライン交流会を実施しました。

この交流会は両校で長年(30年以上)続いている伝統行事で、交流を通じて積極性、社会性、コミュニケーション能力、人権意識を養うことを目的としています。また、多様化する現代社会の中で、相手を思いやり理解するためにはどうすればよいかを生徒自身が考え、両校の生徒に良い学びの機会となる交流会をめざしています。

具体的な内容はそれぞれ「自己紹介・学校紹介等」を行い、質問や感想のやり取りをしました。両校とも創意工夫をこらし、相手に伝わりやすいように何度も話し合いや練習を重ねた様子が見られました。お互いに楽しく貴重な体験ができました。次の交流会は12月15日(木)です。夏の交流は交流委員や生徒会執行部、自立支援生ら、生徒の代表約40名が参加しましたが、冬の交流は1学年全員で行います。今から楽しみです。

総務部より

口頭での報告

PTA 新聞を 1 部配布しましたのでのちほどご覧ください。

(教職員は配布済)

報告

①今年も多くのご保護者の皆様から P T A のご協力をいただきました。各種委員会、P T A 総会等は、感染症対策を徹底しつつではありますが、従来通り行うことができました。また、先日行われた後援会理事会でも多数の方々にお集まりいただき、ご支援をたまわっております。

②校内の方では、今年度より 1 0 月の学校説明会が復活し、11 月のオープンスクールも例年通り実施することになります。予定内容としましては、学校説明会では最初の全体会でパワーポイントを用いながら、詳しい学校紹介を行い、その後、校内見学を実施します。オープンスクールでは、各教室で説明会・質問会を行う予定です。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえてではありますが、開催予定です。

本校では、全体説明会の司会、進行を生徒会の生徒たちが、事前準備や当日の受付等は在校生が行います。また、例年は、全体会のあと在校生が校内見学を誘導・案内し、中学生に向け、直接自分たちの学校生活のこと等を発表します。今年度のオープンスクールは、1 年生に各教室で学校生活のことを話してもらい、その後、部活の質問会のブースで中学生の質問に答えてもらう予定です。

ボランティア部員も受付に当たっています。生徒が生き活きと活動する様子も中学生に見てもらえたらと思っています。